

事業所名：放課後等デイサービスらしき吉祥寺店		支援プログラム	作成日：2025年 10月29日
法人（事業所）理念	すべての人が自分らしく生きる社会を		
支援方針	・「主体性の発揮」「個性を大切にする」に重点を置き、心身ともに『より自分らしい生活』ができるスキルをみにつけられるようにする。 ・障害特性や学校や家庭での生活も総合的に考えながら、一人ひとりの放課後がより充実したものになるよう支援していく。		
営業時間 / サービス提供時間	平日：13:00～19:00 / 14:30～18:30 土曜・長期休業：10:30～16:30 / 11:00～16:00	送迎実施の有無：なし	

長期目標	相手を意識したコミュニケーションや言語表現、遊びの報を広げ、今後の学校生活への自信につなげる。		
短期目標	小目標	内容	現状
集団の中で必要なところへ適切に意識を向ける力をつける	【健康・生活】 衛生マナーの行動を意識する	衛生マナーの行動について視覚提示(カード、チェックリスト)を行いながら確認し、自発的に行動できるよう支援する。行動の順番をわかりやすく提示することで、鼻をティッシュでかむ、唾を吐いたら流す、トイレの前後(衣服を脱ぐタイミング、終わったら汚れたところを拭くなど)の確認の意識を高める。	鼻をかむ、唾を吐いたら流す、 トイレの前におしりを出さない。
	【運動・感覚】 身体や視覚を大きく使い、感覚を伸ばす	何かに夢中な状態でなくても、落ち着いて着席できる時間が伸びるよう感覚面の活動を取り入れる。バランス系用具で遊ぶ、回る、風やボール遊び、緩衝材やペットボトルなどを握りつぶす、マットや毛布で圧を感じる。固いものを踏んで足裏を刺激するなどの感覚刺激を行う。 また、目的物により注目する活動として、ナンバータッチや絵探しなどの多くの刺激の中から特定のものを探し出す課題を行う。	口に入れる、着席が落ち着かなし、指導員に背中べったり触れる、リコーダーを好きになれるような手の活動(ピアノ)? 的やボーリングなどはスムーズにできるようになってきた。勝敗も気にしなくなった。
	【人間関係・社会性】 相手の答えも聞き、会話のキャッチボールをする	受けた質問について回答した後、相手の答えを聞くところまで会話に注意を向け続けることを目指す。表を用意し、指導員が本児へ行った質問(したこと、食べたもの、好きなことなど)について、指導員が聞いて書き取ったあと、本児からも同じ質問をしてもらい、表の指導員の欄に答えを書き込んでもらうようにする。	人の説明を聞き続けることができない、グループでの話し合いが苦手。
学習に対する自信をつけ、 自発性を伸ばす	【言語・コミュニケーション】 様々な言葉を使った文に触れ、語彙を伸ばす	既習漢字が使われた熟語を用いて、文の中で複数の読み方を確認したり、指定された熟語で例文を作成したりする活動を行い、知っている言葉の幅を広げられるよう支援する。漢字の成り立ちやイラストなども積極的に使い、イメージを持って言葉の仲間を意識できるよう進めていく。	あまり文法っぽい作文よりも、物語文の方が好き 語量を広げたい、漢字は1つの読み方しか入っていない。
	【認知・行動】 複雑な数概念を学ぶ	あまりのある割り第や、かけ第のひっ第など、複雑な数の趾念にC9:C10について絵などのイメージや決まりを整理し、理解を深めるよう支援を行う。本児が納得しづらい部分(九九を覚えなくてはならない、あまりがあることで答えが曖昧に感じる、かけ第なのに足し日も使う、など)を乗り越えることで、今後の数学習に対する苦手意識を軽減できることを目指す。	九九を忘れる、あまりのあるわり第がどうしても納得できない。
	【認知・行動】 言葉や文章から必要な情報を得る	国語の文章読解(2年生程度まで、適切に抜き出すもの中心)に取り組み、自信をつけていくことで言葉や文を自発的に読み取って理解、情報収集する力を高めていくよう支援する。	以前よりは漢字の抵抗感なくなっている 文章読解は超初歩レベルでなら自分で答えられるようになりつつあるが、少しわからないとやらない。